

(様式第1号)

■ 会議録 □ 会議要旨

会議の名称	令和7年度第1回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会
日時	令和7年月22日(火) 午前10時00分～正午
場所	北館4階 教育委員会室
出席者	委員長 酒井 達哉 副委員長 柳生 加代子 委員 浅野 晋司 委員 河合 依三香 委員 越野 睦子 委員 溝口 正 委員 中村 紀子 委員 守上 三奈子 委員 池田 恵 委員 尾上 昌希
事務局	教育部長 萩原 裕子 学校教育改革推進室長 山川 範 社会教育推進課長 渡邊 一義 社会教育推進課 海士部 香苗 社会教育推進課 川原 智夏 青少年育成課長 富田 泰起 青少年育成課青少年育成係長 芝田 勇生 青少年育成課放課後事業担当主査 常塚 貴紀
会議の公開	■ 公開 ----- □ 非公開 □ 一部公開 〔芦屋市情報公開条例第19条の規定により非公開・一部公開は出席者の3分の2以上の賛成が必要〕 <非公開・一部公開とした場合の理由>
傍聴者数	0人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 委員の紹介

(4) 委員長、副委員長の選出

(5) 議題

ア 令和6年度放課後プラン事業利用状況及び令和7年度の取り組みについて

イ 中学校部活動の地域展開について

ウ その他

(6) 閉会

2 提出資料

(1) 令和7年度第1回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 次第

(2) 【資料1】放課後プラン事業について

(3) 【資料2】校庭開放事業について

(4) 【資料3】あしやキッズスクエアについて

(5) 【資料4】令和7年度の取り組みについて

(6) 【資料5-1】芦屋市地域クラブ活動方針（案）

(7) 【資料5-2】芦屋市地域クラブ募集要項（案）

(8) 【資料5-3】中学校部活動の地域展開とは（チラシ）

3 委員長・副委員長の選出

芦屋市放課後プラン(子ども教室型放課後対策)事業実施要綱第10条第2項に基づく互選により、酒井委員を委員長に、柳生委員を副委員長に選出。

4 議事内容

<酒井委員長>

それでは、議事に入ります。令和6年度放課後プラン事業利用状況等について、まず、校庭開放事業概要及び実施状況について、社会教育推進課より説明をお願いします。

<社会教育推進課 渡邊課長>

～ 説明 ～

<酒井委員長>

質疑につきましては後ほどまとめてということでしたので、続きましてあしやキッズスクエア事業概要及び実施状況について、青少年育成課よりお願いします。

<青少年育成課 常塚主査>

～ 説明 ～

<酒井委員長>

ありがとうございました。

それでは、以上2点についてご報告いただきましたけれども、ここまで何かご質問等ございますか。

<守上委員>

校庭開放事業ですけど、私は子ども会から出ていますが浜風コミスクの会長もしていません。

浜風小学校だけ全部の土曜日をしていて、コミスクのクラブの方から他のところの学校は第1、第4が休みだから使わせてほしいと言ってくるんですけど、役員の考えとしてはすべての子どもたちに機会を与えてあげないといけなくて、全部の土曜日を開放すべきじゃないかと思っていて、「駄目です」と言っていますが、やはりこの表を見ると、何でやってない日があるのかなあといつも思うんです。

もし、運動場をコミスクとかが使われるのであれば、運動場以外のところでもどこでもいから、毎週どこか使えるようにはできないのかと、他の学校のことはうちから言うべきでないのかもしれないですけど、少し思います。

<社会教育推進課 渡邊課長>

守上さんの仰っているように、やっていないときはコミスクが運動場も使っているし、体育館も使っている割合が高かったと思うので、毎週運動場以外でとなると、場所はないのかというのが担当課の認識です。逆に言うと、コミスクが活動をしていない時は、誰か学校関係や地域の方が使っているとの認識です。そこを踏み込んでまで全校で毎週土曜日に校庭開放までは今のところ考えていません。

<越野委員>

浜風だけが基本的に毎週開催していますが、いつからこのような形ですか。

最初は全校で毎週実施されていたのでしょうか。

<社会教育推進課 渡邊課長>

昔は全週ではなく第2、第4がベースだったと思います。平成20年半ばぐらいからこういう形になっていると思います。当初は山手小学校も入っていたけれども、山手小学校では、校庭開放の代わりがあることと、コミスクの活動で使いたいということでなくなりました。

<酒井委員長>

そういう経緯等、聞かれていかがでしょうか。

また、逆に浜風の今後については、学校単位で考えていただくということで、渡邊さんよ

ろしいですか。

<社会教育推進課 渡邊課長>

今年度ですけれども夏休み 1 日増やしました。増やせるか調べた時にコミスクの活動で運動場を使っているという認識があります。夏は暑いので体育館はどうかと調べたら、結構使っているという認識ですので各校と調整とまでは今のところそこまで踏み込んで言えない状況になっております。

<柳生委員>

質問ですけど、実施状況を見ると 8 月は実施していないということですか。

<社会教育推進課 渡邊課長>

夏休み、春休み、冬休みは実施していません。今年度から夏休み 1 日と春休みに 1 日できたらと思っています。

<柳生委員>

守上さんがおっしゃったけど、確かに浜風は毎週土曜日やっているから参加人数もそれなりですけど、潮見小学校とか岩園小学校はほとんど利用がない状況。だから日にちを増やして参加人数が増えるのかというのも、確かにほとんど増えないのではないかという気もしないではないですが。

<越野委員>

私もその辺はどうかと。この数値を見ても、今年は、ほぼ平均参加人数が 1 桁で、もしかしたらコミスクの活動に参加している子どもたちのほうが多いのではないか。この参加人数では一部の人に限られた事業になってしまっているのではないかと以前から思っていました。

校庭開放事業の周知をどんな形でしているのか、キッズスクエアでは毎年子どもたちにお知らせを配布しています。

<社会教育推進課 渡邊課長>

各学期ごとに学校へチラシを配布してもらっています。昨年度からは子育てアプリ、対象が未就学児ですが、そちらのほうでも周知させてもらっている状況です。

<酒井委員長>

他、この件でご意見、ご質問ございませんか。

それでは、一度また持って帰っていただいてご検討いただくということで、また、ご意見出ましたように折角予算もついている事業ですから、周知を図って公表していただきたいと思えます。

他ございませんか。校庭開放事業、キッズスクエア事業どちらでも構いませんが。

ないようですので私の方から聞かせいただいてよろしいですか。

今週入ってから特にまた暑くなって参りましたが、例年熱中症対策については考えておられると思うのですが、昨年度を踏まえて何か今年新たに、熱中症対策や、子どもたちの安全や健康を守るための何か手だて等、実行されようとしているのか、また検討されているのか、あしやキッズスクエアに関して、お聞かせいただけませんか。

<青少年育成課 常塚主査>

昨年度もそうですが、学校の方でも暑さ指数をベースに、基準を超えれば外遊びは中止という形にしているのですが、キッズスクエアも同じで、暑さ指数が基準を超える場合は外遊びを中止にしまして、基準を超えないぎりぎりの数字のときもあるのですが、その場合は15分一区切りで外遊びを終わって休憩という形をとりまして、熱中症にならないように休憩を多めに取って、子どもたちの健康に気をつけて活動するようにしております。

<酒井委員長>

どうもありがとうございました。

ぜひ、今年も留意してやっていただきたいと思っております。また、関わる方の熱中症も気をつけていただければと思えます。ということで、私の方で1つ聞いてみました。

他、皆さんいかがでしょうか。

<越野委員>

熱中症のことですが、キッズスクエアは学校がある間は放課後開催なので、遊んでいる間は私たちの見守る目があるのでそこまで心配はないのかなと思えますが夏休み期間が気になります。結局何時に来てもいいし、何時に帰ってもいい。普段学校のある時だったら登校班もありますし、帰る時も誰か一緒に帰る子がいたりというのがあるかなと思えますが、夏休み期間中はすごく暑い時間に子ども達が一人で歩いたりすることもあるのかというのを考えると、山手小学校の区域は普段から人通りが少ない時もあるので気がかりです。

<青少年育成課 常塚主査>

現時点で行き帰りのこととなると、市としては対策が難しいのではないかと思います。キッズスクエアは居場所作り事業というところでもあるので、青少年育成課としては夏休み期間もできる限り開催したいという思いがありますので、ご家庭での対策を改めてこちらからお願いさせていただくというのが1番現実的だと思います。

<青少年育成課 富田課長>

子どもだけで活動、放課後児童クラブもそうですけれど、子どもだけで登下校することになりますので、そこは保護者の方に例えば帽子をかぶるとかいろいろな対策をとってもらおうよう注意喚起はこちらでもできるかと思うので、まずそういったところから手立てを取れるところから取っていきたいと思います。

<越野委員>

山手小学校の子どもたちで2号線近くの方から上まで上がってくる子どもたちは、20分か30分くらいかけて歩いてくるような子どももいるので心配です。

<酒井委員長>

貴重なご意見ありがとうございます。

浅野先生、山手小学校ですので、夏休みに入って子どもたちが地域に帰っておりますけれども、夏休みの過ごし方について何か、特に熱中症についてご注意されていることとかはあるのでしょうか。

<浅野委員>

まず、この夏7月にプールとか、2時間目と3時間目の間に中休みが20分あるんですが、今日などは「外へ行って遊んではダメです」と。数値もそうなのですが明らかに数値ではない湿度とグラウンドの状況、例えば朝雨が降れば、やはりもわっとしているので中止が増えました。プールも中止をさせました。実際にプールサイドがすごく暑くてこれはダメだと、水を撒いても気化熱だけでは下がりきらないと中止した時は、滋賀県のほうでお尻をやけどした事件が起きました。だから昨日まで大丈夫だけど、今日は大丈夫じゃないということがあり得る話で、昨年とだけでは比較できなくて、実はもう日に日に本当に大丈夫なのかっていう、我々もプールサイドに立つと当然子どもと同じように裸足になって、実際耐えられるかなという肌感覚で確認しながらやっています。

ですから、本当に遊ぶということも以前であればそんなに支障なくできていると思うのですが、本当にこのまま安全に決められた時間は遊び続けさせることができるのかというのは、やはりその時、その時しっかり考えていかないと、当然、学校の往復だけではなく、活動時間も危険です。おっしゃったように往復についても、行きは多分家から出てきて、いろいろ冷たいネッククールを着けてきているので何とかいけるのかなと。やはり一番心配なのは、遊び疲れてちょっと体力が落ちたところに、非常に暑い昼間に帰るとというのが一番心配ですので、帰る時には子ども達に水分を補給して帰らせるとか、そういうことはしています。

あと夏休みに入る場合、全校の集会でも熱中症には十分注意するように、改めて私の方か

らも子ども達に周知はしていますし、自分の身は自分で守るということ意識することや、熱中症というのは決して甘く見てはいけないこと注意啓発を続けなくてははいけないと思います。

<酒井委員長>

貴重な小学校現場の状況とか、特に昨年度とはまた違うということで、これまで我々の考えでは5年10年のスパンだったのですが、もう今年は去年とは違うんだという認識で、毎年毎年考えていかなければならないということで大変勉強になりました。

このようなご意見を活かしていただいて、去年まではじゃなくて、今年は特に何が違うのだろうというところで、ご検討いただいたら嬉しいと思います。

<河合委員>

うちは伊勢町ですけど、公園で鉄棒とかすべり台が熱くて、夕方蚊がいるから遊べなくて、学校の校庭とか大丈夫ですか。熱さです。鉄棒で逆上がりの練習をしようと思ったら熱くてできないです。

<浅野委員>

砂場だって熱いです。

それぞれ遊んでいる内容に合わせて注意喚起をして、ただ単に温度だけでは済まないです。

<中村委員>

愛護のほうから、登下校のパトロール等をしているときに、やはり子どもが途中で止まって、自分でお茶を飲んだりとかしているということもいっぱいあります。

なので、それなりに学校から聞いていることで、多分子どもたちも自分で考えてお茶を飲んだりとかしていると思いますけども、キッズスクエアとか、着いた時点でまずお茶を飲む、水分を補給するということを必ず決め事という形にするというのを、周知していただくのが必要かなと思います。

<青少年育成課 富田課長>

確かにこれだけ暑い中、遠いところから来る子どもさんもおられるので、来たらまず水分補給しましょうと、そういったことも含めて、スタッフの中で共有します。

<酒井委員長>

マニュアルとかチェックリストとか、そうすることで複数の目で子ども達の安全を守っていけたらと思います。

<社会教育推進課 渡邊課長>

私は、前に上宮川文化センター長をしていまして、そこが児童センターも兼ねています。児童センター事業が終わって友達複数人で帰っていて、1人が熱中症になったということが3年か4年ぐらい前にありました。その時から水分きっちり補給する時間を設けたり、なるべく1人にならない、友達と一緒に帰ってね、という方針には変えました。1人で帰る場合もあるのですが、その時は、水分補給は児童厚生員の先生方が見ているので、そこは大丈夫かなという状態にして帰ってもらうという方法を取りました。

<中村委員>

先ほど申し上げたように、子どもは行き帰りで止まってお茶を飲んだりはするんですけども、そこで飲んでいながら着いたらもう飲まなくていいわ、という気持ちになると思うんです。だから、それではいけないんだということを、やはり周知してあげてほしいです。約束事というの、決まりだよという感じにしていだければ、やはり来たらとりあえず飲まないといけないと思えるようになったらいいかなと思います。

<社会教育推進課 渡邊課長>

児童センターでは、そういう時間をもつようにしました。

<中村委員>

暑さもそうなんですけど、夏は急に天候が悪化するので、その辺もよろしくお願ひしたいです。

<酒井委員長>

雷も最近大きな事故が学校現場で起きていますので、いろいろ考えなくてはいけないことです。急変しますからね。

雷が鳴った時はどこに避難すればよくて、どこが実は危ないのかみたいなことも、学校現場においても、社会教育の場においても教えていく時代になっているかと、昨今のスクールのような雨を見ながら、最近そういうことも思うようになりました。

他いかがでしょうか。

<越野委員>

まさに先日、キッズスクエアの終わりがけに雨と雷がひどくなって、ひどくなる1時間前ぐらいからゴロゴロ鳴っていました。その時習い事で、すぐ帰らないといけないという子がいて、そのゴロゴロがいつ止むかわからない状況で、私たちも帰らせていいものかどうか悩むときがありました。その辺の判断基準を示してもらいたいです。

<青少年育成課 富田>

先々週に芦屋市内で雷注意報が出まして、キッズスクエアの児童の帰宅を少しずらすというような形で保護者の方にお迎えしていただくように対応をとらせていただいたのですが、雷はいろいろな被害も出ておりまして、基本的には雷が光ったり音がしたら、外では活動しない。音がしなくなったり光が見えなくなってから30分間は外へ出ない、それが基本的な対策と聞いています。例えば雷が接近する前に早めにキッズスクエアを終了するというのも、安全なうちに帰らせるということも考えていかないとだめでしょうし、逆にそのタイミングを逃したときは、収まるまではキッズスクエアで預かるとか、災害が接近する危険な時間帯に子どもたちが帰ったりすることがないように対策は、今後も天気予報を見ながらスタッフと意思疎通を図りながらしていきたいと思っています。

<酒井委員長>

ということは各小学校の判断というよりも、教育委員会から一斉にご指示をいただけるということですか。

<青少年育成課 富田課長>

こちらの方から各キッズスクエアに連絡をとらせていただいて、対応させていただいています。

<酒井委員長>

熱中症や雷についてご意見出ていますけど、他いかがでしょうか。

<河合委員>

キッズスクエアは自由ですか。今日、明日行くとかではなくて、行ってみようかなという感じで予約するとかではなくて、加入されている方はいつでも行けますか？

<青少年育成課 常塚主査>

事前に今日参加しますとか連絡は必要なく、事前に登録して印鑑を押した参加カードを持っていけば、今日行ってもいいし、お昼を持っていったら1日いられます。お弁当は実施しているところとしていないところがありますので、実施していないところは一旦家に帰っていただきます。

<河合委員>

今までに親はキッズスクエア行っていると思っていたのに、来ていなかったということとかは。

<青少年育成課 常塚主査>

今までそういったお話は聞いていません。

<越野委員>

普段だったら子どもたちはICチップを持っているので、学校に入ったら保護者に連絡が入るようになっています。

<河合委員>

1件だけ、結局友達の家遊びに行っていた子がいるんです。お昼あるのだったら来てもいいよというおうちだったりとか。

<青少年育成課 富田課長>

キッズスクエアは見守り事業ですので、おっしゃるみたいなことが可能性としてはあります。なので、そういったところはきちんとご家庭で、今日はキッズスクエアに行くんだよというお話をきちっとしていただくという対応を各ご家庭でもってしていただくというのがまず何より大事なのかと思います。

<酒井委員長>

お弁当が腐らないように考えて、いろいろと大変ですが。

それでは令和7年度の取り組みについて先にお話いただいて、ご質問いただくということで少し先に進めさせていただきます。

<社会教育推進課 渡邊課長>

～ 説明 ～

<酒井委員長>

それではこの資料4について進めていきますが、もし、先ほどの令和6年度のことも含めてご意見ありましたら、まとめてお出しいただけたらと思います。

<柳生委員>

実施しない日の下の方の、警報とかそういう災害時の時はやらないという、先日も大雨警報が急に出て、私が担当ではなかったのですが、保護者に連絡をして帰すということがあったんです。そういう大雨警報もそうですけど、前回は議論になったかと思うのですが、地震とそのあとの大津波警報が出たときの避難をどうするかということで、特に海側の学校ですよね。海側の学校は基本的には大津波警報が出れば、山の方へ、浜風小学校のキッ

ズスクエアの場合は岩園小学校が水平移動の避難場所なのです。

実際そんなことが本当に起こったときに、私たち連れていけるのだろうかということもありまして、実際歩きました。岩園小学校まで行ったんですけど、むしろ南側の埋め立て地は、海面4メートルあります。ところが、呉川町あたりのところがほぼ0メートル。一旦下りてずーっと、本当に私たちさっささっさと歩く歩き方で1時間以上かかりました。

そんなことが本当に実際できるのだろうかということがマネージャーの間で問題になりましたし、それから岩園小学校は地域の方の避難場所でもあります。西蔵町辺りの地域の人の避難場所も岩園小学校になっています。そうすると、南の方から1時間以上子どもたちを連れてですから、もっとかかると思うんですけども、その時間歩いて連れて行って、実際のスペース余っているのだろうか、そんなことも本当に疑問点としてあがりまして、地震の後の大津波と警報が出ている中、普段キッズスクエアはいつ来てもいつ帰ってもいいという場所で、見守りの場所ですから、本当にある意味なじみのない子どもも来ている可能性があって、その子どもたちを連れて、一旦危険な川の横を歩いて0メートル地帯を歩かせて、それで一番本当に危ないと思ったのは阪急電車の下をくぐるようになっているんですけど、阪急電車の下をくぐるころって歩道も何もないんです。本当に危ないと思いました。私たち大人が歩いているときに、タクシーがバーッと来たんです。どう逃げたらいいのだろうか。本当にこんな危険なところを連れて、水平移動なんてできるのだろうかというのが大きな疑問点でした。

その辺りが検討材料になっていたと思いますので、垂直移動の方が実際的だし、子どもたちもそんなの怖くて動けないという子を、どうやって連れて行くんだろうと思ったというのが実感ですので、その辺を検討するという話もありましたので伺いたいです。

<青少年育成課 富田課長>

キッズスクエアの浜側の小学校で、地震に伴う津波の被害が想定されるときは避難につきましては、前回もお話いただきまして、いろいろ内部で協議はさせていただいているところなんです。基本的には学校ごとに避難計画を策定されていて、キッズスクエアにつきましては、各学校の避難計画に準じた同様の避難を行うというのを原則としております。

ただ、今委員がおっしゃられたみたいにもいろいろ課題がありますので、まず基本的な考え方としては津波の恐れがあるときは水平避難をする。ただ避難する時間がないときは、一旦垂直避難するという形が浜側の小学校は基本となっています。ただそれぞれ課題がありまして、水平避難のときの課題は今おっしゃっていただいた通りで、混乱する中で子どもたちは動揺していますし、当然スタッフの方もなかなか冷静には、その中で本当に無事に避難ができるのかというところは課題としてはあります。

保護者の方も迎えに来られたりすると思いますので、その対応もあるし、子どもたちがもう歩けないってときにじゃあどうするのか、そうしているうちに到達時間が来てしまうのではないかと、そういった恐れもあります。

一方で垂直避難ですけど、今は建物の3階以上となっているのですが、想定外の被害が出たときに3階以上になる可能性があるということなので、垂直避難すれば絶対安全と言い切れないところで、ただ、学校とか保健安全・特別支援教育課と協議したりスタッフの方と協議させていただいている中で、何より子どもたちを無事に避難させる方法というのをその中でどんどん積み上げていって、さらにいい方法を考えなければいけないと思いますし、そのために何を準備するのかというのも考えないといけないと思いますし、そういった取り組みを各キッズスクエアでさらに広げていく必要があると考えています。

<酒井委員長>

昨年度も話題になってその後検討していただいているということで、また結果がまとまりましたらお伝えいただきたいですし、教育委員会の方としては、この件どのようにお考えでしょうか。

<尾上委員>

学校は基本的に先ほど言われたように水平移動で、場合によっては垂直避難ということですが、その部分に関してはその通りだと思うのですが、必ず大人がいるというのがどれだけあるのか、24時間ずっと大人と一緒にいるかといったらそうではありませんので、そういった状況でなかなか難しいかもしれないですが、低学年からこういった状況が来た場合、やはり考えて行動をできる子ども達を学校の現場で育てていく、もしくは他の現場で育てていくということは大変必要なのかなと思います。

地震だからこう、何かこういうときはこうというような、その状況に応じてどれだけ子ども達が考えてできるのか、やはり学校現場の中で、考えて行動できるように常々やっていかないといけないと思っています。

<酒井委員長>

それではここで一旦1番目の議題を終わらせていただいて、またご意見ありましたら最後にお出してください。

次の議題として、中学校部活動の地域展開について事務局から説明をお願いします。

<社会教育推進課 渡邊課長>

～ 説明 ～

<学校支援課 浅田課長>

～ 説明 ～

<酒井委員長>

この件、今まで以上に学校と地域の連携を深め、地域と学校との共同活動が必要でありますとおっしゃいますが、まさにその通りだと思うのですが、ただ大きな改革すぎてこの時間では質問ができる、またはディスカッションもなかなかしにくいかと思いますが、時間の許す限りそれぞれの立場からいただけたらご意見ご質問よろしくお願いたします。

<中村委員>

校区を超えて参加ということで、自転車を使用してとおっしゃったのですが、自転車を使用するという事は、登下校も自転車になるということですか。

<学校支援課 浅田課長>

まず学校と地域クラブを完全に切り離すつもりですので、まず学校に関しては、登下校は学校ルールに従ってもらいます。よって自転車による登校は行いません。基本は下校された後に放課後活動場所に向かうことや、16時から学校開放するという事は、そのまま自校にいて放課後そのまま活動もできる、そういう流れの方を想定しておるところです。

ただ校区外の、こういったクラブに行きたいというお子様に関しては、一度下校して行ってもらおうということで考えています。

<柳生委員>

今回のこの大きな変化は、中学校の先生方の負担が大きく軽減されるだろうということは想定できて、それはいい方向だと思うんです。

ただ2つほど質問がありまして、1つは今まで通りコミスクの活動がありますよね。それぞれの地域でいろいろなコミスクの活動をなさっていると思うので、そこの関係がどうなるのかというのが1つと、もう1つは登録団体を今から選定なさっていくわけでしょうけれど、部活動で子どもたちが可能であった活動が、例えば何か広く知られてないような活動も、ある学校ではできていた。ところがそういう登録団体がなかった場合に、子どもが入りたい活動が広がるって言われたのだけど、実際はできなくなったというような場合があるのではないかということが、疑問としてあるんです。

それで、それをもっと広く西宮とか神戸とかのところでやれば、そういうのが探して、あればそこへ移動も可能だという話ですけど、実際は学校でそのまま活動ができたのにその地域クラブで無くなったので、何か神戸の端の方まで行かなきゃいけなくなったみたいなことが起こりうると思うんです。

だから、活動が本当にすべての子どもに選択肢が広がるのだろうかというのが疑問です。

<学校教育課 浅田課長>

まず、子どもたちのほうが今何を望んでいるのかということについてアンケートをとらせていただくと、2つちょっと矛盾した話になりますが、現状の部活動の満足度はとても高

いということがわかりました。

ただ、それは部活の中で、自分も中学校の教員をしていましたので、とても子どもたちと
いい思い出が作れたと思っていますし、子どもたちも中学校3年間を振り返って部活動と
いうのは、入っていろいろなことを学ぶということがよかったと思っています。ただ、実は
満足が高いというところと、徐々にニーズは変化しているというか、もっとこんなことがし
たい、割と今部活動にないものを希望する子どもたちも多くて、アンケートには調理がした
いとか、中には釣りがしたい、eスポーツがしたいとか、あとヒアリングをすると、毎日の
部活動より今は勉強との両立をしっかりと図りたいというお子さんもいます。やはり現在の
ニーズには少し完全に合致していないというところで、新しいもので子どもたちが選んで
もらえる体制づくりという考え方をメインにしています。

ただ、考えていかないといけないのが、途中まで部活動に入っているお子さんが、例えば
中2の夏、中3の子たちはちょうど区切りがよく終わるのですが、中2や中1の夏の段階で
活動先が無くなってしまう子たちに関しては、せっかく頑張ったものがそこで立ち切れて
しまうということがあります。結論を言うとそのお子様たちに対して、こういうものを用意
できますという断言が今できないです。

なぜかという、応募いただく方次第となりますので。ただ、可能な限り、そういった団
体さんが応募しやすいような環境を作ったりとか、必要があれば呼びかけのほうもさせて
いただきながらということで、何とかその部分にも取りこぼしなく対応できるような働
きかけができればいいかなということを現段階では考えているところです。なかなか手を
上げてくださるところ次第というところが、不安な気持ちを覚えられることだと思うので
すけども。

<社会教育推進課 渡邊課長>

コミスクとの関係性ですけども、コミスク連絡協議会にもこの話をさせていただきました。
そこで出たご意見としては、今、既存のコミスクの活動の中に中学生を受け入れている
団体がいらっしゃる。そういったところに関しては地域クラブに登録していただく必要は
ない状況ですけれども、今後も受け入れられるということが想定されるので、まだ内部でそ
の辺を精査しているところです。

正式にこういうふうな方針で芦屋市はやると決まったら、コミスクの方々とまたお話し
合いをさせていただくという形になると思います。1つでも多くの団体の方が受け入れてい
ただくことによって、中学生の選択肢が広がるのは間違いないことですので、何とか選択肢
を増やしていきたい、いろいろな活動を選べるように、中学校の部活動の地域展開は1つの
地域クラブを選ぶ訳ではなく複数選べますので、月曜日はバレーボールやって、火曜日はバ
スケットボールやって、そんなこともできることとなりますので、いろいろなことを増やし
ていけたらという思いが教育委員会ではあります。

<中村委員>

その団体として、団体の方がいいですよって言わないと無理じゃないですか。いうことはその段階でいいでしょうって言ういくつかの団体を、来年の8月から始まるんで、その選べる団体というのは、子どもたちにいくつか出してあげることができるのでしょうか。多分それがないと無理だと思うんですね。もしゼロの場合だったら、選ぶことできないのですよね。

子どもたちに選ばしてあげられるのは、いつの時点で、どういうふうにして選ばせてあげられることが出来るようにしたいとお考えなのでしょうか。

<社会教育推進課 渡邊課長>

移行に関しましては運動部は、来年度の8月から、文化部は10月からを考えております。それまでに募集がゼロだった場合どうなるかについては、中学生は何も活動ができなくなります。そうならないように頑張ります。

<河合委員>

コミスクは校区縛りがありますよね。あれはもう関係なく、精道小学校のコミスクに山手中学校の生徒が来るのですか。コミスク側は受け入れるということですか。

<社会教育推進課 渡邊課長>

そのようなこともありますので、コミスクの方とはお話し合いをさせていただくという形になると思います。

<河合委員>

逆に今、全然見受けられないような、例えば手芸クラブとか、そういうクラブがもし集会所とかでやるというメンバーがおられたとしたら、それはそれで、採用してくれたりするのですか。

<学校支援課 浅田課長>

大歓迎です。

<河合委員>

指導する方々に最低このぐらいの年齢層とか、18歳未満は不可、高校生は不可と書いてありますが、それが78歳の方でもよいのですか。子どもたちが、とても耳が遠いからあの人しゃべる時とても大声で疲れるとかなるとか、関わりたいけど、関われない高齢者も結構おられるじゃないですか。そういうのは、身体上チェックを入れるのですか。

〈社会教育推進課 渡邊課長〉

子どもたちが自主的に選ぶというのが目的なので、例えばその高齢者の方の手芸教室を、子どもたちが選ぶかどうかということだと思います。ただ、受け入れ先で耳が遠いとか、そこに関しては、今のところ制限とかはあまり考えてはいません。

そういったことも含めて、子どもたちが自主的に選んで、そういった方に接することによって、高齢者の方は、こういうことだなんていう、これも1つの勉強だと思うんです。

個人的には、健康な人が教えなければだめだというのは思っていませんでした。ただそういったことも内部で精査しなければだめだなんていうのは認識を持ちました。ありがとうございました。

〈酒井委員長〉

ハラスメントの事案が全国的に、教育現場起きてますので、教育委員会としてどのような団体、個人の人選するかということも責任が生じています。でも、あと、ゼロか100かで、今、考えてしまうんですけど、実際、今の先生方はどのぐらいの割合で継続指導する希望を持たれてるのか、そういうデータはまだありませんか。

〈学校支援課 浅田課長〉

何度か、そういった伺いはしております。まだ前提としてこういう形でいきますよというお示しがなかなかしにくい中で、今もまだルール自体や、先生が手を挙げられたらこういう形ができると明確なものが示せない状態ですが、何回か意向は確認しています。その条件なので正式な形では発表しておらず、内々で共有をしている段階ですが、希望されている方もいらっしゃると思いますね。

〈酒井委員長〉

例えば神戸市とか先行的にされていますけど、そういう他自治体のデータのなところは、その何%ぐらいの先生方がやられているか、データはお持ちでしょうか。

〈学校支援課 浅田課長〉

データは申し訳ありませんが今、手元には持ってないのですが、数多くの方が希望されているということではなくて、他市町並みのような割合で特に大きな変化はないかと思っております。

〈学校教育改革推進室 山川室長〉

数制的なものが明確にお答えできないんですけど、おおよそ、あつて2割だと思います。ひょっとしたらもう今希望されてる方は、10%ぐらいですので、これまで顧問をやっているということで、その教員の方もやっていきたいというような部分で、思われてる方も

いらっしやいますし、やはり多分半分か半分弱ぐらい、4割、5割弱の教員の方は今まで経験がないスポーツを顧問として受け持たれてたりという現状が実際にあります。

やはりこうなって、いろいろと働き方の話がどんどん出てきて、生徒と向き合う時間を考えていくときには、やはりそういった方が引き続いてということは、正直考えにくいという部分があるかと思えますし、引き継がれる方は少数じゃないかなというふうに考えています。

<酒井委員長>

参考になりました。ありがとうございました。

あと芦屋市というのは、他市と違ってキッズスクエアというベースがあります。先ほどコミスクの話が出ましたが、キッズスクエアとのこれまでの繋がりとか、キッズスクエアの現在の形を、この事業の方に生かすという視点はございますか。

<富田課長>

キッズスクエアは、もともと小学生を対象とした国の居場所づくり事業ということになります。例えばそれを中学生の方で考えた場合、やはり年齢層が違いますので、例えば1人で過ごせるかどうかとか、あと例えばその学校外の活動の範囲とか、そういったところが小学生とか違うところがありますので、全く同じ事業を中学校でするっていうのがスパッとハマるものではないと考えております。

今のところ、キッズスクエアを中学校で中学生版でするというのは考えてはいないのですが、中学校の方の居場所づくりは教育委員会全体で、こういった地域展開を含め考えていくという形になるのかなと考えております。

<酒井委員長>

登録団体というのはすごく財産だと思いますので、その方々が、この事業に協力してくださる可能性もあるので、そのくらいパイプを大にさせていただきたいと思います。

他いかがでしょうか。ご意見、ご質問どうぞ。

<越野委員>

先ほど先生方の兼職が可能というので、先生方の中には部活動の指導がしたくて先生になられたという方も一部おられるので兼職ができて良かったと思うのですが、実際のところ先生方が今所属されている中学校でそのまま活動されるというのは今もやっておられるので可能だと思うのですが、先生方には人事異動があります。異動となった場合、平日は、授業終了後に移動してまた元の学校に戻るようになります。例えば、潮見中学校に異動になった先生は山手中学校までまた行って、ということが実際にできるのかが気になります。先生方が地域クラブに関わられるようになったら所属の中学の方で、なるべく先生を早く帰

らせてあげるようにしていただくとか何かがないと、土日とかなら何とかなるかもしれないですが、平日は難しいのかなと思います。そのあたり、ぜひ指導したいという先生方のためにも考えていただきたいです。

<柳生委員>

今まで学校の先生の負担を本当に大きかったと思うんですけども、その分、その部活動の先生方と生徒との関係という非常に濃密で、この先生だからこの部活動に行きたいとか、そういう生徒さんが多分たくさんいらっしゃるんだと思います。

そういうところが切れて、その先生が部活、そういう地域の団体に入られれば別ですけども、全く馴染みのないグループに、本当にコミュニケーション能力で最近是非常に心配なお子さんもたくさんいる中で、全く知らない、お友達同士は知っているかもしれないんですけども、そういう指導者との関係というのがちょっと不安な部分もあり、きっと生徒さんでも不安な部分を持たれる方もあるんじゃないかなあと思います。地域のそういう団体のグループに、参加していくっていうちょっと壁を乗り越えないといけないような、生徒さんにとっては本当に新しい出会いを求めていくという面は、いい面でもあるかもしれないですけど、大きな壁になる生徒さんもいらっしゃるんじゃないかなってというのが危惧されるところなので、その点も、登録される団体、人選に関してですね、すごく難しい面があると思います。

<酒井委員長>

配慮を要する生徒もいますので、対応をお願いしたいと思いますのですがどうですか。

<学校支援課 浅田課長>

まず、部活動の顧問と子どもたちの間の関係というところは、当然、その学校の先生方は、授業、そして特別活動の中で、より充実した教育活動を進めていくように、研修し、研究に努めていくのが、教員の立場だと思います。そこでまず、子どもたちの育ちを担保していきたいです。ただ、例えばトライやる・ウィークで地域の方と繋がったときのことをきっかけにして、前進したお子さんいらっしゃいますし、また先生は違う出会いによって、よい出会いがあったりよい影響があったりということも実際にありますので、地域クラブ対象の研修の中でも、今は研修項目の方にあげておりますけども、そういった子ども理解というところを関わる皆さんにもわかっていただくことが大切だと思っております。

<池田委員>

今いらっしゃるかどうかわからないのですが、不登校の方でクラブだけ参加できるお子さんの中には何人かおられると聞いているので、少数ではあると思うんですけど、そんなお子さんたちの場所が無くなってしまったら、中学校に来られなくなってしまおう方が少

数かもしれませんがいらっしゃるかもしれないので、その方たちの居場所づくりも今もしていただいているとは思いますが、もう一つまたしていただけたらとありがたいと思います。

〈学校支援課 浅田課長〉

学校との関わりというところで、自校で行っているものの把握は、これまでの直接的な関わりとは少し違いがありますが、例えば精道中学校が自校で地域クラブの取り組みをしていることは、把握は当然していると思いますので、子どもにそれをつなげたりとか、声かけしたりとかというルールが可能な限りで行えるのではないかと想定しています。

〈酒井委員長〉

そのことに関連して、複数の団体に入れるということですか。逆に言うと、全く入ることのない生徒さんがいるということは考えられるわけです。選択肢がない、そういう生徒の人数は、今より増えるのでしょうか、減るのでしょうか。そのあたりどう予想されていますか。

〈学校支援課 浅田課長〉

選択をしないということ自体が駄目であるという評価はできないのかなと思っていますが、なるべくそういった子どもたちもアクセスしやすいような、子どもたちと地域クラブの近づけ方であったりが必要はあるのではないかと考えています。

ただ想定としては、これまでやはり部活動は、当然入るものだというのが、入らないという選択する子どももいたのですが、ほぼ入部していたのも事実でありますので、そういった視点でも考えていく必要はあるのではないかと考えています。様々な意見をいただく中で認識しております。

〈学校教育改革推進室 山川室長〉

今、大体入部率が8割弱となっております。

今後については、なるべく、同じくらいの生徒さんが活動してくださるよという思いはございます。ただ1点少し懸念されますのは、やはり週4日とか週5日で、我々世代からしたら、中学校の部活で1つのことにずっと打ち込んで、そこで学んだものであったり、その友達との繋がりであったり、一生の財産になったりというのがあって、そういうものを求められる方に対して満足できる活動が、一部のメニューとしては用意されると思います。いわゆるガチで、試合に勝っていこうみたいなところが、地域クラブとして並ぶかといえそうではないと思いますので、逆に言いますと、例えば、本当にそういう活動をされたい場合は、クラブチームみたいなところに入られる。部活動をされずに、そういうところに入られるという可能性はございますので、実際には、これはもう私個人の予測ですけど、ちょっと落ちるのではないかと考えています。

ただ、当然、いろんな週末だけの活動とかもあるでしょうから、少しでもそういうような形で、何かしら、関わっていただける、活動していただけるものは、用意させていただいて、それにご参加していただけるようにはしていきたいと考えています。

〈酒井委員長〉

ということは、もしかしたら、この委員会の名前じゃありませんけど、放課後に生徒たちが地域で見られるようになるということも考えられるということですか。

〈学校教育改革推進室 山川室長〉

そうです。

〈酒井委員長〉

その他いかがでしょうか。どうぞ。

〈守上委員〉

既存の団体は、別にこのクラブの募集に応募をしなくてもうちのところへおいでと言えば、来られる訳じゃないですか。その場合は、教育委員会としては、子どもたちがどこ行ったか把握できないと思うのですが、やはりそういう団体、おいでと言っている団体も、この応募してくださいという形なのですか。

〈学校支援課 浅田課長〉

その部分が、先ほども話がありましたが整理はしていく必要があると思っています。例えば、先ほども出てきた校区の問題、既存のものであれば小学校区とするが、地域クラブでは関係がないという相反するルールで対応するみたいなことになってしまうと思います。

ただ、そういった子どもを受け入れてくださるところをまずは大前提としてありがたいところから始まると思います。窓口が多いのが絶対に良い、受け皿多いのが絶対に良いと思っていますので、市や教育委員会がどのように関わっていくかという整理をしながら進めていこうと考えております。

〈社会教育推進課 渡邊課長〉

コミスクの団体と思っているのですが、コミスクと話をさせていただきたいと思います。

〈守上委員〉

いえ、山登り会とか。

〈社会教育推進課 渡邊課長〉

そこは整理が要るんだろうと思います。芦屋市にはコミスクというものがあって、そこで現在中学生を受け入れていただいているという事実がありますので、そこをベースに山登りの会など考えていくのかなと思います。そこは整理させていただきたいと思います。

〈酒井委員長〉

その他いかがでしょうか。どうぞ。

〈溝口委員〉

基本的に学校施設を使って活動するという理解でよろしいのでしょうか。グラウンドとか体育館とか芦屋市内にはそれほど無いですね。指導者の方がそれぞれ学校に行ってそこで子どもたちが活動するというスタイルをイメージしておいたらいいのですか。

〈社会教育推進課 渡邊課長〉

そういった場合もありますし、例えば体育館で活動しているところに来てくださいというのもあると思います。中学校だけというのは考えていないです。ピアノ部をもしやられるのであれば、ピアノ教室の場所があるならそこで活動となります。

〈溝口委員〉

グラウンドといっても芦屋市は限られていますからね。中央公園なんかですとすでにいろいろなところが活動されていて、ほぼ毎日その中学校の部活で使用できるかという点、多分それは無理だと思います。そうなってくるとやはり中学校の施設を使われるのかなとイメージしていたのですが、基本はそうですね。そうなってくると将来的にですよ、あそこの中学校には何々部があるとなると、校区が違っていると、最初からそこの中学校へ進学したいという希望が出てきた場合どうするのですか。校区外ですが。

例えば5年くらいたつと、例えば山手で野球をやっていると、精道ではサッカーやっていると、自分は宮川だけど、そもそも中学校は精道だけど、山手に通いたいとかという子どもが出てきた場合どうされるのですか。

〈酒井委員長〉

いかがでしょう。

〈社会教育推進課 渡邊課長〉

すいません、全く考えておりませんでした。

〈溝口委員〉

ですよ。何年かやっていると、多分あそこは野球が盛んとか、住み分けが出てくるので

はという気がしておりました。

〈学校支援課 浅田課長〉

ご意見ありがとうございます。基本的には小学校区、中学校区にきちんとルールに基づいて設定されていくというのが、原則になってくるかと思いますが、どちらかというとその校区よりオール芦屋で選んでいくというのが馴染んでいけばいいのかなと思っています。子どもたちや親御さんの中では、そう思っていていただく想定を持っています。

〈酒井委員長〉

あと1年というところで、本当にこれから詰めていく作業が大変だと思いますけど、どうかよろしく願いいたします。

各委員の先生、委員の方々も、先ほど申しましたように、やはり、より地域と学校の繋がりが求められるようになりますので、それぞれの立場で、上手くサポートしていただければと思います。では、時間がそろそろ参りましたので、一旦この件ここで置かしていただいてよろしいでしょうか。はい、どうぞ。

〈溝口委員〉

子どもが減るといっていますが、例えば10年後とか。出生数とか出ていると思うのですが、どのくらい減っているかわかっているのですか。例えば今の中学3年生なら700人くらいですか、10歳下の子どもたちはどのくらいになるのか、出生数はわかっていますよね。それがびっくりするくらい減るのか、なだらかに減っているのか、そこを知りたかったのですが。

〈学校教育改革推進室 山川室長〉

出生数でいうと数年前に500人を切っています。今の中学生ぐらいでは多分700、800人だと思いますので、多分、半分までいかないにしても、一定というか、私は思ってるよりは減ってるなど。

〈社会教育推進課 渡邊課長〉

新型コロナが落ち着いたら出生者数が戻るのかなと思っていたら戻らずです。むしろ下がっていたのではないかと思います。

〈酒井委員長〉

全国的にそういう状況でして、あとはいかに魅力的な町にして、人口流入、そういうところで、確定ではありません。

では、先に進めます。

それでは事務局、その他についてお願いいたします。

〈社会教育推進課 渡邊課長〉

放課後子どもプラン運営委員会につきましては年2回開催しておりますので、昨年度は2月に開催させていただきましたので、今年度の2月頃を予定しております。

また日程が決まりましたらご連絡させていただきますので、よろしくをお願いいたします。
以上です。

〈酒井委員長〉

最後に、何か言い残されたこと等ございませんでしょうか。

それでは、本当に貴重なお時間、活発にご意見を交わしていただきましてありがとうございました。

次、お会いするのは、去年のイメージでいきますと、今度は、雪が降っているはずですので、それまでいろいろと事業の方、進むと思いますけど、皆さん、それぞれの立場で、どうかよろしくお願いいたします。

今日は本当にありがとうございました。